

BMC プログラム海外派遣報告書

生物科学専攻 エピジェネティクス研究室
博士後期課程 2 年 三島 優一

学会：Keystone Symposia ~Molecular Basis for Chromatin Structure and Regulation~

会場：Sagebrush Inn and Conference Center

期間：2010 年 1 月 17 日～22 日

私はアメリカ合衆国のニューメキシコ州
タオス（上の写真：街中の風景）で行なわ
れた **Keystone Symposia** に、**BMC** 海外派
遣プログラムの援助により、ポスター発表
で参加いたしました。学会会場（下の写真：
学会会場の外観）のあるニューメキシコ州
タオスは米国南部に位置するので、暖かい
ところを想像させますが、今回訪れたタオ
スは標高が高いスキーリゾートで非常に寒
く、私が滞在した期間は連日気温が氷点下
でした。しかし、このような厳しい環境か
らは想像できないのですが、米国インディ
アンの文化が色濃く、世界遺産や芸術が豊
かな歴史のある所でした。



今回の会には、クロマチンの構造や制御
に関わる研究者約 300 人が出席しました。
同じ専門分野の教授、ポストドク、私など
の学生が身分に関係なく、日がな一日、同
じ場所で講演やポスター発表、さらには余
暇・食事をともにして何日も過ごすという



環境は私には初めての経験で、研究や実験の議論も充分に行えました。会は口演が毎朝 8 時から行なわれ、昼休憩をはさんで午後はレクリエーション、夕食をとりながらポスター発表となり、11 時、12 時まで毎晩議論が続くというのは、私には新鮮な驚きで、感激しました。

私が学会に参加した大きな目的の一つは、揃いつつある実験結果を、世界の一流研究者に評価・議論してもらいたいということでした。ポスター発表の開始からポスターの前には人が集まり、私の拙い英語にもかかわらず、研究に興味を持ち、興味深い仕事であると評価してもらえたのは嬉しかったです。しかし一つ残念なことは、私の英語力のなさからか、説明の途中でいなくなる人がいたこと、質問に対して的確に答えられなかったこと、また、研究以外の世間話になった途端話についていけなくなったことです。英語の聞き取りや話す能力のなさを痛感させられました。

今回の会では、予想していなかった貴重な経験もしました。会では留学している多くの日本人研究者に会い、留学や研究の話など貴重な情報を得ることができました。また、**Keystone Symposia** が特別なかもしれませんが、会場は街中にないので、近くに店がなく、3~4 キロ離れたスーパーマーケットまで氷点下のなかを歩いて食事や飲み物を買に行ったことなど、日常生活でも貴重な経験をしました。

今回の会で私の研究は、世界の研究のなかでもユニークで皆に興味を持ってもらえるものであることを実感して、大きな自信になりました。最後になりましたが、学会に参加する貴重な機会を与えていただきました **BMC** プログラムと関係者の皆様に深く感謝いたします。